

シラバス参照



科目名	プログラミングリテラシー(入門)【前期後半】
科目名(英字)	Programming Literacy(Introduction)
ナンバリング	1FCB29
年次	1年次
単位数	1
期間	前期(後半)
担当者	杉川 智(スギカワ サトシ)

授業のねらい・概要	情報ネットワークを活用したシステムの構築には、ソフトウェアを作成するためのプログラミングに関する知識や技術を持っていることが重要である。本授業では、一年次後期から開講されるC演習Ⅰの基礎となるプログラミングの第一歩を演習形式で学習する。		
CSコース			
スパイラル型教育			
授業計画	テーマ	内容・方法等	予習／復習
	第1回	プログラミング環境(1) C言語のプログラム作成とコンパイル方法、Unix環境での課題提出方法について学ぶ。	第1回講義資料より、プログラミングの意義について予習すること。配布した資料第1回分を復習し、次回以降のファイル提出方法を正確に把握すること(予習2時間、復習2.3時間)
	第2回	プログラミング環境(2) 引き続き、プログラミングの手順の理解と、学外からの利用方法について学ぶ。	第2回講義資料より、コンパイルの仕方について予習しておくこと。復習時には、演習室外からの接続を実際に実施すること(予習2時間、復習2.3時間)
	第3回	Cプログラミング入門(1) C言語のプログラムの基本的な構造や、エラーとその調べ方について学ぶ。	第3回講義資料より、エディタの使い方について予習しておくこと。メッセージ出力方法について復習すること(予習2時間、復習2.3時間)
	第4回	Cプログラミング入門(2) プログラムの基本要素である入出力について学ぶ。	第4回講義資料より、scanf文の基本的な使い方について予習しておくこと。scanf文による入力、printf文による書式のついた出力を復習すること(予習2時間、復習2.3時間)
	第5回	Cプログラミング入門(3) プログラムの基本要素である条件分岐について学ぶ。	第5回講義資料より、if文の基本的な使用方法について予習しておくこと。if文、ブロック{ }について復習すること(予習2時間、復習2.3時間)
	第6回	Cプログラミング入門(4) プログラムの基本要素である反復の基礎について学ぶ。	第6回講義資料より、for文、while文の基本的な使用方法について予習しておくこと。for文、while文について復習すること(予習2時間、復習2.3時間)
	第7回	Cプログラミング入門(5) プログラムの基本要素である反復の応用について学ぶ。	第7回講義資料より、2重のfor文、while文の基本的な使用方法について予習しておくこと。for文を複数使うプログラム例を復習すること(予習2時間、復習2.3時間)

	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
到達目標	(a) プログラミングの基礎的な知識や手法を理解し、説明できる。 (b) 具体的なソースコードを記述し、コンパイル・実行ができる。			
評価方法	到達目標(a)については、授業期間中の複数回のレポート等で総合的に評価する。 到達目標(b)については、実際に作成するプログラムの作成状況によって総合的に評価する。			
成績評価基準	A: 到達目標(a)について達成した上で、到達目標(b)について達成度が90%以上である。 B: 到達目標(a)について達成した上で、到達目標(b)について達成度が80%以上である。 C: 到達目標(a)について達成した上で、到達目標(b)について達成度が70%以上である。 D: 到達目標(a)について達成した上で、到達目標(b)について達成度が60%以上である。 F: D以上の基準に達しない。			
教科書	書名	著者名	出版社名	
	1. プログラミングリテラシー(入門)	杉川智	学習支援サイトで公開	
参考書				
受講心得	本授業では、プログラミングのための言語として、主にC言語を取り上げるが、実際の開発現場では、C++、C#、Java、Python、など様々なプログラミング言語が利用されている。プログラミングの知識や技術をしっかりと身につけるためには、興味のある問題を選択し、とにかくソースコードを記述し、コンパイル・実行を繰り返すことが重要である。情報分野の問題解決のための主要なツールとしてのプログラミングの基礎を身に付けてほしい。各回で作成するプログラムにおいて、間違いやすい箇所を授業内で解説するので、理解に努め疑問点を解消すること。			
オフィスアワー	杉川：水曜5限 426研究室			
実践的教育				

